



馬越ダムより取入れた用水路



用水を思ほり堰と麻生堰に分水する



大川用水堰の円形分水装置、中央に噴きあげて、
4水路に平均に分ける

ひき、本郷発電所に三・〇三%を使用させるが、その殆どを回収して、四堰へ配分するため円形分水施設に導入してくる。この到着水量は六、六九五%である。

この円形分水器は、下部に堰水を導入して上昇させ、円形を周り、その間、何個というように柵の大きさを定めて四方に分けるもので、旧式の木のわくで行なう柵分けよりは、巧妙、正確な、珍しい進歩した施設である。柵数は下流の耕地面積により、岩崎堰下が最も多く、四八七・五ヘクタールに対して三、六〇八%、約一四〇個に当る。その西に接して麻生堰が一・一ヘクタールに対して、〇・九四四%、本郷堰は一、〇五六%を分水する